



# THE Y'S MEN'S CLUB OF KANAZAWA-SAIGAWA

CHARTERED IN JUNE 12, 1993

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF  
Y'S MEN'S CLUBS

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

KANAZAWA YMCA : 44-1, SATOMICHO, KANAZAWA, JAPAN 920-0998

<http://www.ys-chubu.jp/saigaways/>

国際会長主題 「信念のあるミッション (使命・目標)」 “Mission with Faith”  
 アジア地域会長主題 「愛を持って奉仕をしよう」 “Through Love, Serve”  
 西日本区理事主題 「あなたならできる！きっとできる」 “You can do it! Yes, you can!”  
 中部部長主題 「踏み出そう 次の一步のための今の一步を」  
 金沢犀川クラブ会長主題 「平和を実現しよう！」 “Let's be the peacemakers!”  
 会長：平口哲夫，副会長・書記：北 肇夫，直前会長・会計：澤瀬 諭

今月の聖句： 神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。  
 ローマの信徒への手紙 14章 17節

## 2015年8月強調月間

### Youth Activities

若者 (ユース) に、YMCA やワイズメンズクラブについてもっと知ってもらい、互いに共感や連携のできるプログラムを推進しましょう。  
 河合久美子 Yサ・ユース事業主任 (京都ウエスト)

<p>☆☆☆ 8月第一例会案内☆☆☆</p> <p>日時：8月13日(木) 19:00~21:00          会場：金沢都ホテル (JR 金沢駅兼六園口前)          会費：3,500円          準備：竹中ワイズ</p> <p>***プログラム***</p> <p>司会：澤瀬ワイズ          開会・点鐘：平口会長          ワイズソング：一同          今月の聖句：司会者          ゲスト紹介：司会者          今月のハッピーバスデイ：平口会長          該当者なし          食前の感謝：三谷ワイズ</p> <p>—— 会 食 ——</p> <p>卓話：「日本古来種のワガメ・イガメについて」          新田智敏氏 (元・国家公務員)</p> <p>事業委員会報告：各委員          ニコニコタイム：澤瀬ワイズ          閉会点鐘：平口会長</p> <p>*例会に使用済み切手、アル缶、ワス用布製品をご持参下さい。</p>	<p>☆☆☆ 7月例会報告☆☆☆</p> <p>[第一例会] 7月9日(木) 19:00~21:00、金沢都ホテル、卓話「故・川上君についての思い出」三谷ワイズ、参加者：北・澤瀬・竹中・平口・三谷。          [第二例会] 7月23日(木) 19:00~21:00、竹中チャペル、参加者：北・澤瀬・竹中・平口。</p> <p>第19回中部部会 9月26日(土)、名古屋市公館(名古屋市中区三の丸三丁目2番5号)。</p> <p>今月の聖句について 「兄弟を罪に誘ってはならない」をテーマにした14章後半は、「つまづきとなるものや、妨げとなるものを、兄弟の前に置かないように」(13節)、また「平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか」(19節)と呼びかけ、「あなたがたは自分が抱いている確信を、神の御前で心の内に持っていないさい。自分の決心にやましさを感ぜない人は幸いです。」と述べています。(平口 哲夫)</p> <p>9月の当番 準備：北、司会：竹中</p> <p>《 金沢 YMCA のホームページ 》  <a href="http://www.ys-chubu.jp/kanazawaymca/">http://www.ys-chubu.jp/kanazawaymca/</a></p>
---	--

当クラブ	7月出席者	7月出席率(正会員)	BFポイント	ニコニコタイム
正会員 4名	正会員 4名	4÷4×100	前月繰越切手 3,118g	前年度累計 77,848円
広義会員 0名	功労会員 1名		7月分切手 2g	7月 7,605円
功労会員 1名	メネット 0名	メーキャップ 0名	今年度累計	
	ビジター 0名		切手 3,120g	
	ゲスト 0名		現金 0円	
合計 5名	5名	100%		累計 7,605円

## ◆ 7月 Kick-off 特別例会に参加して ◆

北 肇夫

7月9日(木)、7月第一例会は、Kick-off特別例会として“金沢都ホテル”で開催された。本例会には、当クラブの全ワイズが参加したものの、前期よりメンバー1名減の厳しいスタートとなった。

まず前年度のクラブ事業報告・決算報告が行われ、続いて今年度の活動方針・事業計画・予算書について意見交換し、審議の後、承認された。平口・新会長の活動方針は、会長主題の「平和を実現しよう！」に基づき、基本に立ちかえって取り組もうと唱えられている。近年の最重要課題「会員増員」のために充実した楽しい例会に取り組んでいるが、未だ会員増員には到っていない。また、YMCA については、積極的な支援、特にリーダー育成を重視することが確認された。

今月の卓話は、三谷ワイズに「故・川上君についての思い出」と題して語っていただいた。川上ワイズは「誠実」を絵に書いたような性格の持ち主であり、会計実務を改善し、積極的に各種行事に参加されたことなど、エピソードを交えていろいろと語られ、在りし日の川上ワイズを偲んだ。

なお、従来の第一例会会場“金沢白鳥路ホテル”がホテル側の都合により使用できなくなったため、今期から第一例会は“金沢都ホテル”で行うこととなった。



## ◆ 愛犬リタの思い出(3) ◆

澤瀬 諭

犬を飼うと何事があっても欠かせないのが散歩である。子供たちも珍しさもあってか、これまで起こさないとおきてこなかったのが、競うように早く起きてきた。リードを持つのを奪い合うように散歩に出かけていった。まだ子犬ということもあってさほど時間はかからずにすんだ。これが1週間ほど続いたが、あっけなく挫折。朝起きれなくなり、夕方の散歩へと変わっていった。

妻からは、貰ってきた人の責任だからと冷たくあしらわれ、当然のように朝の散歩が私に廻ってきた。帰りが遅く深夜になることもたびたびあったので、朝6時の起床はかなりきつかった。雨の日も風の日も休むことは出来ず、特に寒風吹きすさぶ冬場の散歩はことのほか厳しかった。

成長するにつれ散歩する距離も長くなり1時間ほどかかるようになった。時間がなくて短く済ませようとすると、戻ってきて後ろ足でふんばり不満をあらわにした。散歩を待ち焦がれている犬の姿を見るといとおしく、これが唯一救いであった。この散歩が今後12年間続くのである。

(つづく)

## ◆ “ご縁”と“摂理”(最終回) ◆

平口 哲夫

若草教会の“すなどり”No.148・149(2007)に「進化・創造論をめぐって」と題して投稿したことがあります。そこで述べたことの一部を1～3に分けて以下に紹介します。

1. アメリカのキリスト教原理主義(ファンダメンタリズム)的な教派には、聖書の記述を文字通り事実として信じなければならぬと主張し、公立学校においても進化論教育を廃止するよう訴えている人たちがいるのですが、科学としての「進化論」と、宗教としての創造論を区別し、両立の思想を広げ深めることがキリストの福音を宣べ伝えるためにも望ましいと思います。

2. 聖書を「信仰の誤りなき規範」とする信仰告白は、聖書が科学書として誤りがないと宣言しているわけではありません。聖書には、その書かれた時代や社会の知識・習慣・環境などが反映していますから、現在の科学知識に反する記述があっても不思議ではないのです。

3. 「聖書の記述に一部でも誤りを認めると、正しいかどうかの判断が神にではなく人間によってなされることになり、確かさの根拠が失われるから、聖書にはあらゆる点で誤りがなければならぬ」と主張する人たちがいます。しかし、そのような主張は、私たちが手にする聖書がどのような過程をへて現在のような形をとるようになったのかを考えてみただけでも、妥当とは言えません。人間の手によって記され、編集され、翻訳される以上、なんらかの誤りが生ずるおそれがあります。にもかかわらず「確かさの根拠」を聖書に求めることができるのは、たえざる聖霊の働きのもとに読み解かれてきたという信仰に裏打ちされてのことでしょう。

ところで、“すなどり”No.202(2015)で紹介した「病者の祈り」(ニューヨークリハビリ研究所の銘板に記されている作者不詳の詩)は、使徒信条の冒頭にある「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず」の「全能」の意味を考えるうえで示唆を与えてくれます。

「大きなことを成し遂げるために 強さを与えてほしいと神に求めたのに つつしみ深く従順であるようにと弱さを授かった / 偉大なことができるように 健康を求めたのに よりよきことをするようにと 病弱を与えられた / 幸せになろうとして 富を求めたのに / 賢明であるようにと 貧しさを授かった / 世の人々の賞賛を得ようとして 権力を求めたのに / 神の前にひざまづくように 弱さを授かった」(以下省略)

環太平洋造山帯の西側に位置する日本列島は、面積は狭いけれども、南北に細長く伸び、周囲を海で囲まれ、高い山脈によって日本海側と太平洋側に隔てられているので、四季の変化はもとより、地域的にも多様性に富んでいます。この環境をもたらした自然現象は、同じ要因による場合でも、ときには恵みを、ときには害をもたらしますので、恵みだけを享受するわけにはいきませんが、害を避けたり、減らしたりする工夫はできます。そのような自然現象を、私たちがどのように受けとめ、対処していけばよいか、ということについても神のお導きがあるように思われます。